

～「いわて林業アカデミーカリキュラム 講義と現地研修」～



↑ 講義の様子



↑ さいネット柵・センサーカメラの説明

盛岡森林管理署では、岩手県が林業事業者の中核となる技術者を養成するために設置した「いわて林業アカデミー」の現地研修を平成29年度から実施しております。

今年度も「鳥獣害対策」カリキュラムとして、5月28日に県林業技術センターで第2期研修生18名を対象に講義と虫壁山国有林における現地研修を行いました。

今回の研修では、まずニホンジカの生態等を学び、ニホンジカの獣害対策として使用している防鹿柵についての知識を深めてもらうこととしました。

まず、業務総括より「ニホンジカによる森林被害について」の講義を行いました。

はじめに、ニホンジカやツキノワグマ、イノシシを見たことがあるか問いかけたところ、研修生の多数が見たことが無いとの回答でした。

ニホンジカとはどういう生き物か知ってもらうため、今年設置したセンサーカメラで撮影された映像を見せながら、ニホンジカの雌雄や年齢についてわかるかどうか問いかけました。

研修生からは「角の有無で雌雄を判別することや、角で年齢を判断できるとは初めて知った」との感想が出されました。

また、生後1年目のニホンジカやカモシカについては、画像だけでは雌雄が判別で

きない事に触れ、さらに、ニホンジカとカモシカの違い（体型や繁殖期、行動やなわばり等）を説明し、「相手の生態等を知ること」の重要性を説明しました。

食害跡の写真を利用し、ニホンジカやカモシカは、上あごに歯が無いことに触れ、講師が身振り手振りで、上あごと下あごで挟んでちぎり取る食べ方を実演し、野ウサギの食害跡との違いを説明しました。そして、「森林被害が拡大した場合、苗木の食害による形状の変化や角こすり、そしてなにより、シカが草を食べ尽くせば生物多様性の低下が加速し、その結果、地域に何がもたらされるのか考えて欲しい」旨を伝えました。

講義終了後、虫壁山国有林へ移動し、さいネット柵（平成28年度設置）、PEネット柵、金網柵（共に平成29年度設置）と3種類の防鹿柵を巡回し、紫波森林官より作業時の苦勞した点や点検・補修について比較を交えながら説明を行いました。

さいネット柵設置箇所では、柵設置後にネットが多数食いちぎられたり、埋設ペグが

飛び抜けたり、シカがネットに絡まるなどして、補修点検に相当な労力を費やした現状に触れ、「防鹿柵設置後のメンテナンスが重要である」旨、説明を行いました。

センサーカメラ設置箇所では、実際にカメラ内部のSDカード交換を行い、研修生に撮影データを見せ、効率的な撮影のため、感度等の設定や設置位置の微調整を行っている旨、説明を行いました。

PEネット柵設置箇所では、設置ライン周辺の伐根処理や周辺小班の枯損木処理の重要性に触れ、また、沢を越える箇所ではネットを二重に張って流水被害に対処したことから、現地の状況に合わせた効果的な設置を行うことが重要である旨、説明を行いました。

金網柵設置箇所では、使用した資材が重く搬出路が隅々まで入っていることで、運搬時の負担を軽減できたこと、斜面では強度を増すため、控え柱を増やしたこと等作業時の苦労した点について説明を行いました。

研修生より「なぜ種類の違う防鹿柵を設置したのか」との質問がありましたので、さいネット柵は設置コストを重視したこと、金網柵は点検・補修の軽減を重視し、急傾斜でかつ面積の大きい小班に設置したこと、PEネット柵は金網柵と同じく点検・補修の軽減を念頭に、スカートネットによって本体ネットを守るよう設定した旨説明し、現地の様々な要素に合わせて、より効果的な防鹿柵を選択することが重要である旨、説明を行いました。

研修生のふりかえりシートでは、「シカの生態や繁殖、オス・メスの判別方法を知ることができた」「シカによる被害はあまり身近に感じてなかったが、生息数や被害が急速に増えていて深刻な問題だと実感した」「防鹿柵の設置作業はとても大変。もっと楽な方法があれば良いと感じた」「防除はメスを重点的に捕獲することが理解できたので防除の際は実践したい」等の感想が寄せられました。

今秋には、国有林関係のカリキュラムが2日間予定されていることから、講師一同、第2期研修生のより一層の精進と今秋の再会に向けてお互いに頑張っていこうとエールを送りました。

今回の現地研修が、研修生の皆さんの今後に少しでも役立つのであれば、たいへんうれしいことです。



↑ PEネット柵の説明



↑ 金網柵の説明と意見交換の様子